

円の変動リスクをワンストップでヘッジできる

通貨先物のご案内

世界中の投資家が注目する、日本市場。

日経225先物、日本国債先物、金先物——

さまざまなアセットクラスの取引が活発に行われる大阪取引所に、

2026年4月、新たな商品が誕生。それが、「通貨先物」です。

免責事項

「通貨先物のご案内（以下「本冊子」という。）」に関する著作権は、株式会社大阪取引所（以下「大阪取引所」という。）にあります。本冊子の一部又は全部を無断で転用、複製することはできません。

本冊子は、大阪取引所の先物取引に関する制度の概要説明のみを目的として提供されるもので、先物取引の勧誘を目的としたものではありません。先物取引においては、相場の変動等によって損失が生じるおそれがあり、差し入れた証拠金の全部若しくは一部を失う、または、差し入れた証拠金を超える損失を被ることがあります。

また、相場変動等により証拠金額に不足が生じた場合には、追加の差し入れが必要となります。お取引に際しては、あらかじめお取引先の金融商品取引業者等から交付される契約締結前交付書面等の書面の内容を十分にお読みいただき、商品の性質、取引の仕組み、リスクの存在、手数料等を十分に御理解いただいたうえで、御自身の判断と責任で取引を行ってください。

本冊子に含まれる記述などの使用に関し、大阪取引所は一切責任を負いません。大阪取引所は本冊子に記載の事項に関し、将来予告なしに変更することがあります。

WMR 外国為替ベンチマーク

The WMR Intra-Day Spot Rates are provided by Refinitiv. Refinitiv shall not be liable for any errors in or delays in providing or making available the data contained within this service or for any actions taken in reliance on the same.

為替変動リスクと向き合う、
すべてのプロフェッショナルへ

大阪取引所の通貨先物。
ワンストップで為替変動リスクをヘッジできる、新しいスタンダードです。

編集・発行
株式会社大阪取引所
〒541-0041 大阪市中央区北浜1-8-16
TEL : 06-4706-0800 (代表)
URL : <https://www.jpx.co.jp/>
2026年4月発行



なぜ、通貨先物なのか？

大阪取引所で取引される日経225先物や金先物。実はその取引の約7割が、海外の投資家によるものです。海外から日本市場に投資する際、避けて通れないのが「円の為替変動リスク」です。たとえば、日経225先物で利益が出ても、円安が進めば、本国通貨に換算したリターンは目減りしてしまいます。日本の国内投資家であっても、海外資産に投資する場合、為替変動リスクは発生します。そこで、多くの海外投資家や日本の投資家から、「為替変動リスクを、同じ市場で、効率よくヘッジしたい」という声が寄せられています。通貨先物は、まさにその声に応える商品です。新たに「通貨」というアセットクラスが加わることで、円のエクスポージャーを、JPXグループの大阪取引所でワンストップにヘッジできる環境が整いました。



通貨先物の取引制度のポイント



1 通貨ペアは3種類

「米ドル／日本円先物」「中国オフショア人民元／日本円先物」、そして「ユーロ／日本円先物」です。

2 WMR外国為替ベンチマークを採用

取引の参照レートには、世界中で広く利用されているWMR外国為替ベンチマークを採用。透明性の高い公正な価格形成が行われています。

3 取引単位は、米ドル／円先物の場合、1枚あたり1万米ドル

1ドル150円とすると、150万円に相当する取引です。中国オフショア人民元／円先物の場合、1枚あたり10万円。1オフショア人民元20円換算で、200万円相当です。ユーロ／円先物の場合、1枚あたり1万ユーロ。1ユーロ180円とすると、1枚あたり180万円に相当です。



4 比較的小口の単位

比較的小口の単位となっており、個人の投資家でも使いやすく、ポートフォリオの元本に対して精緻にヘッジ額を合わせることができます。レバレッジ効果により、想定元本よりも少額の証拠金を元にお取引いただけます。

5 差金決済型

満期時に現物通貨の受け渡しは発生せず、差額のみを決済するシンプルな仕組みです。実物のやりとりを伴わずに、為替リスクをコントロールできます。

6 グローバルな通貨先物の慣行に沿った取引時間設計

取引時間は日経225先物と同様、日中・夜間セッションをカバーしています。限月は3・6・9・12月の四半期サイクルで直近5限月を設定。取引最終日は限月の第3水曜日の2営業日前となっており、グローバルな通貨先物の慣行に沿った設計です。

通貨先物のメリット

POINT 01 幅広いご活用シーン



通貨先物の活用シーンは多岐にわたります。たとえば、海外投資家が日経225先物のポジションを持つ際に、為替ヘッジとして通貨先物を組み合わたり、海外から円建てで預託している証拠金の為替変動リスクをヘッジすることができます。また、国内の証券会社や地方銀行が、外貨建て資産の為替リスクをヘッジすることが可能です。そしてもちろん、為替の方向性に対するスペキュレーション目的での取引にも活用できます。

POINT 02 流動性の高い市場環境



大阪取引所は、通貨先物の流動性向上にも強くコミットしています。複数のマーケットメイカーが参入し、日中・夜間ともに厚みのある市場を実現しています。なお、手数料ディスカウントキャンペーンなども随時実施しています。

POINT 03 証拠金相殺による資金効率の向上



大阪取引所の通貨先物が持つ、大きなメリットのひとつが「証拠金の相殺」です。先物取引には証拠金が必要ですが、通貨先物のポジションを他の指数先物やオプション取引と同時に保有する場合、証拠金が相殺される仕組みが適用されています。たとえば、日経225先物と米ドル／円先物を組み合わせた場合、証拠金は約30%削減。本来必要な証拠金の約7割の資金で、両方のポジションを維持できます。異なる通貨ペア間でも証拠金の相殺が適用されるため、複数の通貨ペアを活用する投資家にとって、大幅な資金効率の向上が期待できます。

※証拠金相殺割合はその時点の相場・ポートフォリオにより変動します
※2026年1月時点の試算値

通貨先物の取引制度概要

	米ドル／日本円先物	中国オフショア人民元／日本円先物	ユーロ／日本円先物	備考
取引対象	WMR外国為替ベンチマークのイントラデイ・スポットレートに基づく以下の金融指標			WMR外国為替ベンチマークはFTSE社の算出する通貨の価格を示す金融指標
	アメリカ合衆国通貨一単位当たりの日本円相当額	オフショア市場における中華人民共和国通貨一単位当たりの日本円相当額	欧州経済通貨統合参加国通貨一単位当たりの日本円相当額	
取引時間	8:45am-3:45pm、5:00pm-6:00am (東京時間)			日経225先物と同様
限月設定	3・6・9・12月のうち直近5限月			各限月取引の期間は1年3か月
取引最終日	限月の第3水曜日の2営業日前			
取引単位	10,000米ドル	100,000中国オフショア人民元	10,000ユーロ	
呼値の単位	1米ドルにつき0.01円 (1取引単位につき100円)	1中国オフショア人民元につき0.001円 (1取引単位につき100円)	1ユーロにつき0.01円 (1取引単位につき100円)	
呼値の制限値幅	8% (第一次拡大: 12%、第二次拡大: 16%)			日経225先物と同様
即時約定可能値幅	0.8% (寄付き: 3.0%、引け: 1.5%)			日経225先物と同様
ストラテジー取引	カレンダーズプレッド取引が可能 (第1限月から第5限月までの全限月の組合せ)			金融指標ごとに計10シリーズ
J-NET取引	可 (呼値の単位: 0.0001円、制限値幅: 呼値の制限値幅の基準値段×8%)			日経225先物と同様
最終決済方法	最終清算数値に基づく差金決済			最終清算数値は取引最終日の午後5時(日本時間)のWMR Intraday Spot Ratesがベース
最終決済日	限月の第3水曜日(当社休業日に当たるときは、順次繰り下げる。)			取引最終日の2営業日後
祝日取引	対象			